

第1学年 学年総合学習の記録

渡辺 松一・栗原 恵美子・松本 純一・木村 真冬

1 はじめに

今年度、総合学習（総合Ⅰ「学年総合」）の計画をたてるにあたり、3年間の共通テーマとして「多文化社会に生きる私たち～私たちにできること～」をテーマとして設定した。そして、1年での学習活動を3年間の総合学習の導入として位置づけ、以下の点に留意することとした。・1年生のうちは教師主導型中心になっても、できるだけ多様な活動を体験をさせてグループでの研究活動に慣れさせる。・インタビューや現地学習を多く取り入れ、興味・関心の喚起を重視する。・後期グループ活動は基本的には2年生以降に継続する。・話し合いのスキルを学ぶ機会をできるだけ取り入れる。

2 1年間の総合学習（総合Ⅰ「学年総合」）の流れ

月	内容（時間数）	ねらい・学習のポイント	教科との関連	活動主体
7月	①留学生のお話をきく会 (3h)	・世界の様々な文化を知る ・話をしっかりときく	国語・社会	クラスの班
9月	②生徒祭 「多様な文化の理解に 取り組む私たち」 ※(14hのうち11h)	・「多文化」からテーマを選び、追究する ・グループ活動の企画・実行 調査 展示発表		テーマ別 グループ
10月 11月	③鎌倉校外学習 ※(14hのうち11h)	・日本の歴史・文化を知る ・教科クロスの ・見学の計画・実行	国語・社会・ 美術・家庭	クラスの班
12月 1月 2月 3月	④グループ学習「私たちにできることって何だろう」 (19h)	・多様な文化の「共存」に関連して、実際に活動している方のもとへ行ってお話をきき、自分たちにできることを考える ・小グループでの研究・活動 インタビュー、訪問調査、発表	国語他	テーマ別 グループ (小グループでの活動中心)

※特別活動と関連しているので、総合カリキュラムの時間数のうち3時間ずつを特別活動としてカウントした。

3 活動の記録

(1) 留学生のお話をきく会 (2004.7.19)

〈ねらい〉 ・身近にいるお茶の水女子大学への留学生の方々のお話を伺い、それぞれの出身国の文化と日本の文化との相違点や共通点に興味を持ち、多様な文化への関心を深める。

・きちんとした態度でお話を伺い、自分たちから質問する経験をする。

〈時間〉 ・準備1h+当日2h

〈準備〉 お茶の水女子大学の日本語の授業で学ぶ留学生の方達に、「日本と出身国を比較して」というテーマでの講演を依頼した。生徒に対しては、総合学習に関するガイダンスとともに、事前アンケートを行った。

(多かった質問) ・日本の良い点・悪い点、日本の好きなのところ・嫌いなのところ、母国での日本のイメージと日本にきてからの印象、なぜ日本に留学したか、日本料理をどう思うか

班長会で、2班ずつが2ヶ国の話を伺えるように準備をし、環境係がプリント資料を作成して、班ごとに事前学習を行った。

〈教科との関連〉 ・社会 世界の国々の学習と関連づけをはかる

・国語 夏休みの課題として、お礼状を作成する

〈結果〉 中国、台湾、インドネシア、韓国、キルギス、ポーランド、スウェーデン、モンゴル、イギリス・イタリアからの留学生の方からお話を伺った。よく準備をして下さり、日本との生活習慣の違いなどを大変わかりやすく話していただいた。緊張からか、質問があまりでない班もあったが、感想をみると、異なる文化に目をひらかされる想いをしたという生徒がほとんどであった。伺ったお話を全体で共有する時間はとれなかったが、生徒どうしで情報交換する姿もみられた。生徒の興味は食べ物や学校など身近な話題に集中しており、これをきっかけに今後どのように関心を深めるかが課題となった。

(2) 生徒祭「多様な文化の理解に取り組む私たち」(2003.9.27~28)

〈ねらい〉 ・総合学習としての生徒祭の目標を「多文化(多様な文化)の理解に取り組む私たち」とし、生徒祭のテーマ「ファンタジスタ」と学年目標「つなぐ」と関連させる。

・1年竹組の人数が少ない(特に男子が9月編入2名のみ)状況と、後期総合学習へのつながりを考えて、今年度はクラス単位ではなく、学年で4つのテーマにわかれて展示発表を行うことを試みる。4テーマにおいて、多様な文化について調べ、展示・発表方法を工夫する。

・テーマにもとづいて、グループ活動の企画・実行を行う。

- 〈時間〉 総合カリキュラム14時間扱いのうち11時間。3時間は特別活動。(前日準備・当日は学校行事)
- 〈準備〉 生徒祭のテーマ，総合学習のテーマをもとに，やってみたい内容を話し合い，評議員を中心に，4つのテーマを設定した。
- ①宇宙（宇宙の不思議，星座，自然と人間など。模型の展示など。）
 - ②ギネス（世界のスポーツ，様々な世界の記録など。実演・展示など。）
 - ③ディズニー（世界に広がるアニメ，ディズニーの文化など。アニメ上映など。）
 - ④神話・物語（世界の神話・物語など。劇をビデオにとり上映など。）
- 生徒の希望をもとに人数調整をして4グループにわかれ，グループ長を中心に生徒が話し合っ内容の企画を行った。
- 〈結果〉 クラスではなく，グループ単位で活動したことで，各自の関心のある程度いかすことができ，展示の方式も多様なものとなった。クラスをこえたグループで，生徒が主体的となった話し合いを経験し，後期の総合学習のグループ活動につながられた点でもよかった。反面，クラス単位ではないことから，時間をかけて議論することが難しくなってしまった。総合学習の「多文化社会」とのつながりよりも，行事としての生徒祭の展示の要素が強くなる傾向があり，生徒祭と総合学習をどのように結びつけるか，検討が必要と思われた。

(3) 鎌倉校外学習 (2003.11.15)

- 〈ねらい〉 ・「多文化社会に生きる私たち」の一環として，日本の歴史を文化を知る。
- ・鎌倉の歴史的風土にふれ，その特色を見出し，教科クロス的な総合学習を見出す。
 - ・鎌倉市内の班行動を計画し，協力しながら主体的に学習を行う。

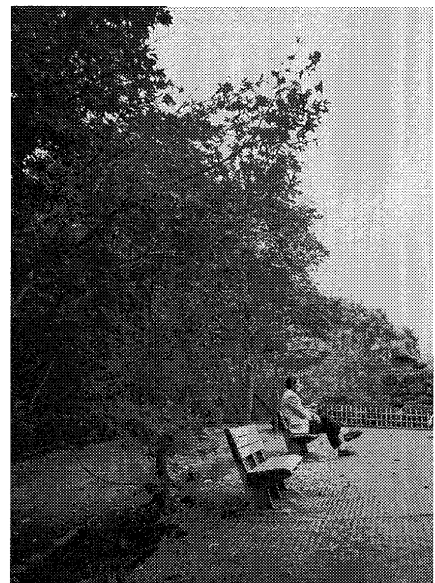
〈時間〉 準備6h・当日6h・まとめ2hの計14時間扱いのうち，11時間。

〈準備〉 コース例を基本として，4時間前後でまわれるコースを班ごとに組んだ。鎌倉の歴史的風土にふれ，さまざまな特色を見出すという目的から，代表的な史跡（鶴ヶ岡八幡宮・円覚寺・大仏は必修）や静かな小寺院，山や海などをなるべく組み合わせることとした。社会・国語は事前学習を行った。

〈教科との関連〉

- ・社会 鎌倉を知る

【資料Ⅰ】写真コンテスト優秀作品



地理の学習で、鎌倉の地図を読みとる。

歴史での学習と実際の見学で得た情報を結びつけ、歴史や文化への理解を深める。個人テーマを決めレポート作成。 例) 鎌倉の寺, 大仏, 北条氏

【資料Ⅱ】 校外学習の記録

竹組 2 班 校外学習の記録

行動

国語の課題 キャッチフレーズ

選選選選選 鎌倉歩き。
 源氏山公園で遊い、銭洗弁天で遊い、佐助稲荷で遊い、
 更には由比ヶ浜の海まで見物し、私が歴史を学んだ?
 とはもう私も大人な気持ちになって帰りました。
 じまきやかりや時間に関心を持って帰りました。

銭洗弁天 ~ 銭洗弁天は金洗うところ
 大仏は鎌倉のシンボルで、その大きさは
 日本一です。大仏の大きさは、
 鎌倉の歴史を伝えるシンボルです。
 大仏の大きさは、鎌倉の歴史を
 伝えるシンボルです。大仏の大きさは、
 鎌倉の歴史を伝えるシンボルです。

地蔵仏像長谷寺!
 長谷寺の地蔵仏像は、鎌倉の歴史を
 伝えるシンボルです。地蔵仏像の大きさは、
 鎌倉の歴史を伝えるシンボルです。

はとがいたのにつる 鶴岡八幡宮
 お寺には鶴岡八幡宮のつるが、そのつるに
 はとが大量にいる。つるのおおきさを知らず、
 つるにしがみついて、つるをよじ登り、
 友達とお守りを買った。つる、つる、
 お寺の大きさにびっくり!!
 庭園もきれいなお寺!!

大仏の大きさは大仏
 大仏は、自分が思ったより大きかった!!
 実際に中に入ると見事に思いました。申し
 げお寺です。大仏の大きさを思い出し、
 見れてよかった!! 野原1班

由比ヶ浜海岸 ~ 貝殻拾い
 由比ヶ浜海岸は、鎌倉の歴史を伝える
 シンボルです。貝殻拾いは、鎌倉の歴史を
 伝えるシンボルです。

・美術 「秋の鎌倉を撮る」写真コンテスト

班ごとに、「秋を感じさせる鎌倉の写真」を撮影。

1年生の投票で優秀写真を選出する。【資料Ⅰ】

・国語 「鎌倉のキャッチフレーズ」

各自が鎌倉の特色、印象をもちこんだキャッチフレーズを作成し、班で作成する校外学習の記録に入れる。【資料Ⅱ】

・家庭 「我が家のおむすび！おにぎり！」

校外学習でのお弁当に関連させて、自分の家のおむすび、おにぎりの作り方・こつなどをレポートで紹介。自分の家庭の文化のコメントをつける。

〈まとめ〉 生徒達は、充実した班行動を行うことができた。校外学習についてのアンケート結果（122人）は以下のようであった。

Q. 鎌倉の歴史・自然・文化などの特色をつかむことができましたか？

よくできた 33% まあまあできた 62% あまりできなかった 5%
できなかった 0%

Q. 日本の文化に対する興味を高めることができましたか？

よくできた 33% まあまあできた 50% あまりできなかった 14%
できなかった 3%

内容的な深まりは、歴史や文化に関心をもって見学した班とそうでない班と大きく差が生まれたようである。また、生徒にとっては「鎌倉の学習」で終わってしまいがちであり、総合学習として日本の文化を考えるという段階までもっていくことは難しかった。

また、班を離れてしまう生徒がいたことから、学年総合学習の大きな目標である「協力してともに学ぶ」の姿勢を身に付ける必要があると感じられた。

(4) グループ学習「私たちにできることって何だろう」

〈ねらい〉 ・さまざまな文化の共存のために、実際に活動している方や施設へいってお話を伺い、自分たちにできることは何かを考える。

・小グループでの研究活動を行う。インタビュー・調査活動を行い、工夫して発表する。

〈時間〉 ・準備等10h, 当日 4 h, まとめ等 5 h

〈展開〉

① テーマについてのアンケートを行い、評議員が8テーマに分類

環境25人, ボランティア19人, 日本や外国の文化18人, 福祉12人

ユニセフ7人, スポーツ6人, 外国の言葉6人

② 12月16日 5限 「総合学習って何だろう。多文化とは？」総合学習ガイダンス

- 「話しをきくためのスキル・トレーニング」【資料Ⅲ】
- 6限 「三人よれば文殊の知恵」テーマについて考える
- ③ 1月13日 6限 「国際社会に生きる私たち」坂下教諭の話
- ③ 1月19日 5限 8テーマごとに、そのテーマを追究したい希望者が集まり、その中で小人数グループを作成、それぞれが追究するテーマを考える。
- 6限 8テーマを調整して、4つの大グループをつくる。【資料Ⅳ】
海外青年協力隊の活動に関するVTRをみる。
- ④ 1月27日 6限 4つの大グループにわかれる。グループ内で、小グループごとにやりたいことを発表する。インタビュー対象に依頼する。
- ⑤ 1月30日 5・6限 行動計画をたてる。事前学習を行い、質問を考える。【資料Ⅴ】
- ⑥ 2月2日 3限 インタビューの準備
- ⑦ 入試期間中 各グループの活動

大グループ	小グループのテーマ	訪問先等
文化& 伝統	アフガニスタンの子供達 宗教 宗教 西洋の文化 アメリカの文化 日本各地の食文化 世界のいろいろな服 自衛隊イラク派遣 伝統工芸品	お茶大勝野先生研究室 碑文谷カトリック教会 聖カテドラル大聖堂・護国寺 (資料調査) 港区図書館 有楽町交通会館ふるさと物産店等 文化学園服飾博物館 図書館 江戸下町伝統工芸館
福祉& ユニセフ	子どもの教育・未来 駅の福祉 バリアフリー 老人ホームの福祉 ユニバーサルデザイン ホームヘルパー ユニセフ ユニセフ ユニセフ	東京都自動会館 茗荷谷駅 お茶中車椅子体験 文京区緑の郷 デザイナー宅 ニチイ学館 ユニセフハウス ユニセフハウス ユニセフハウス
行事& スポーツ	オーストラリアの正月 世界の祭り バレンタイン 浅草の外国人観光客 ブラジルの祭り テニス オリンピック	オーストラリア大使館図書館 小石川図書館 池袋 浅草 街頭インタビュー 緑が丘図書館 横浜テニス発祥記念館 秩父宮オリンピック記念館・国際辰巳水泳場

公共施設& 環境	子どもの生きる環境 児童館 都庁の働き 都庁のバリアフリー 地球温暖化 地球温暖化 ゴミ問題 大気汚染	文京区役所 児童館 都庁 都庁 学校 講師のお話 学校 講師のお話 池袋・光が丘 街頭調査とインタビュー 学校周辺調査・図書館
-------------	--	--

- ⑧ 2月10日 グループ内発表 活動の報告 【資料VI】
 活動記録用紙を冊子にまとめる。 【資料VII】
- ⑨ 3月9日 総合発表会 大グループを4つにわけ、4教室で発表会を行う。 【資料VIII】
- ⑩ 3月19日 総合学習をふりかえって ビデオ「ハゲワシと少女」

〈まとめ〉 当初、教員側のねらいとしては、国際理解(異なる文化との共存)、福祉(異なる世代、「障害」者との共存)、環境(自然との共存)のために活動する方達にインタビューをするという内容をと考えていた。しかし、生徒の希望をみたところ、文化そのものを調べたい等の希望も多く、「共存のために何をするか」という視点になっていない生徒も多いことがわかった。そこで、今回は準備時間が少ないこともあり、今後2・3年生での総合学習の導入と位置づけ、文化そのものを調べる等の活動も認め、発表を互いにきくことで共有化を図ることを目的とすることにした。

入試期間中の自宅学習日を利用して、ほとんどのグループが予定通り活動を実施することができた。インタビュー対象を設定することができなかったグループは、図書館へ行って資料検索をしてくるなどの活動を行った。

総合学習発表会では、それぞれの学習活動で調べた内容をOHP、模造紙、パワーポイントなどを使って発表した。インタビューや実地調査などを行ったグループは内容的にも充実していた。発表会を通して、「多文化」について様々な角度から考えるとともに、効果的な発表方法などの共有化をはかることができた。

4 今後の課題

1年間の学年総合学習をふり返ると、以下のような点が指摘できる。

3年間の「多文化社会に生きる私たち」の総合学習では、最終的には、さまざまな文化が共生できる社会のために、生徒たちが自分たちなりに行動するという段階までいきたいと考えている。1年目は「導入」として、留学生のお話、生徒祭グループ活動、鎌倉郊外学習、グループ学習など、多様な活動を実施し、「多文化社会」について多面的に知ろう、という投げかけや意識づけを行うことはできたといえよう。

しかし、活動の中で「多文化」の意味が拡大して捉えづらくなってしまったこと、一つ一つの活動と大きなテーマとのつながりをじっくり考える時間が不足していたことなどから、各学習が単発的なものになってしまった。生徒による関心の差も大きく、関心の高い生徒は充実した活動を行っていたものの、学年全体としてのまとまりは不十分であった。

また、総合学習の過程の中で、グループで話し合い、計画的に行動することを得意としない生徒が多いということもわかり、学年の課題として教員側が意識する結果となった。今後も、これらの力を育てる学習活動を、特別活動や教科もふくめ、意図的に積み上げていく必要がある。

2年生以降の総合学習では、1年生での経験をふまえ、テーマについて考えを深めたり、実際に自分たちで行動する企画をたてるなどの学習を行っていく予定である。生徒がより主体的に学習に取り組めるよう、ねらいを明確にし、内容の充実をはかっていきたいと考える。

(文責：木村)

【資料三】

1 年総合学習 (5時間目) 2003.12.16

(1)総合学習ってなんだろう (夏休み前にやったクラスもありますネ)
 これまでに自分が経験した「教科をこえた学習」「グループでテーマを決めて調べる学習」「グループで活動する学習」をあげてみましょう。

(2)多文化について考える…わたしはどんな人だろう?
 自分がどんな文化に所属しているか考えてみよう

- ①わたしは お茶中生の一人です。
- ②わたしは 10代の若者の一人です。
- ③わたしは _____
- ④わたしは _____
- ⑤わたしは _____
- ⑥わたしは _____
- ⑦わたしは _____
- ⑧わたしは _____
- ⑨わたしは _____
- ⑩わたしは _____

(3)スキルトレーニング：話をきく (国語の授業でもやりましたね)

A相手の話をきちんときいていない態度ってどんな態度?

B相手の話をきちんときいている態度ってどんな態度?

- ・二人組をつくります
- ・片方が(1)で書いたことを1分間話します。きく方はAの態度で話します。
- ・交替します。
- ・今度は、(2)で書いたことを1分間話します。きく方はBの態度で話します。
- ・交替します。

話を聞いて、どんな気持ちになりましたか?

1年 組 番 氏名

1 お茶中の総合学習のねらい

- 1) ねらい
 - ①学年でテーマを設けて追究する (小テーマごとのグループにわかれて追究する)
 - ②教科の授業では多く扱っていないがこれからの社会を生きるために必要なこと、教科をこえて学習した方がよりよく理解できることを追究する
 - ③実際に社会に関わり、社会をよくするために活動する
- 2) およその流れ
 - 1年グループで調べる練習 → 2年自分たちで考え実践 → 3年社会へ発信

2 今年度の取り組み

大テーマ「多文化社会に生きる私たち～私たちにできること」



→1年生では、この中でいくつかの多文化をとりあげる

②これまでの活動

- 7月 留学生にお話をきく…異文化を知る
- 9月 生徒祭 …テーマごとにグループにわかれ調べ、発表する
- 11月 鎌倉校外学習 …日本の文化を知る 班別行動をする
- ③総合学習
- 12～2月 私たちにできることって何? (仮題)

福祉 (異なる世代、障害者との共存) 環境 (自然との共存) 国際理解 (異文化との共存) などについて活動している方達のお話を伺おう

- 12月16日 知り合いのことを話し合う
- 1月 20日 グループ分け
- 30日 事前学習
- 2月 2日 インタビューの準備
- 2月3日～6日 自宅学習期間 インタビュー訪問
- 2月 17日 インタビューのまとめ
- 2月 27日 発表会

3 話し合いのスキルトレーニング
 第1回 話をきく姿勢のトレーニング

2004年1月19日(火)

1 学年 総合カリキュラムの流れ

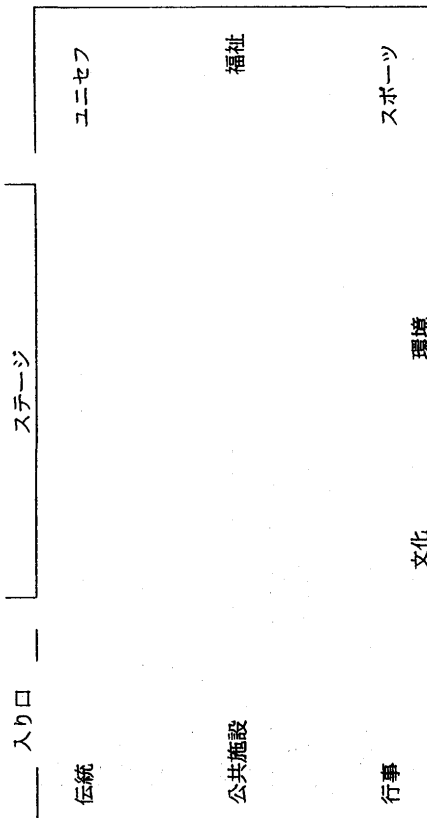
1. 5限アリーナにて(コート・筆記用具持参)

クラスごとの整列→評議員からの説明、補足木村先生→

8つのジャンルに分かれる(※下図参照)→グループヒング(小グループ含む出席者分)

→用紙(各自と提出用)に記入→評議員に提出→クラスごとに整列→

渡辺先生よりVTR説明等



2. 6限各教室

VTR視聴(20分)→ワークシートに記入→→→→→評議員からの説明

↑
評議員は生徒会室で、総合学習の4グループ編成など相談・作業→↑

→大グループ確認

1 年 総合学習 (6時間目)

2003.12.16

1) グループディスカッション 「三人寄れば文殊の智恵」

総合学習のテーマについて考えを深めよう

- ①班ごとに、「環境」「ボランティア」「国際理解」「福祉」「アングレートで多かつたものを参考に仮に4テーマを設定しました)のうち一つを選び、所用紙の真ん中にアングレート結果
- かく 環境 25人 ボランティア 19人 日本や外国の文化 18人
ユニセフ 7人 スポーツ 6人 外国の言葉 6人
- ②そのテーマについて知りたいことをできるだけたくさん各自がポストイットに書く。一人一枚ずつ順番にはっていく。
- ③出つくしたら、似ている内容のものをまとめてグループわけする。
- ④そのテーマについて、やってみたいこと(活動してみたいこと)をポストイットに各自が書き貼っていく
- ⑤にている内容のものをまとめてみる
- ⑥時間があれば、別のテーマについてもやってみる

2) 発表

班長から話し合った結果について、発表

3) ふりかえり (個人アングレート)

本日の内容をふりかえる。
総合学習でやってみたいことを記入。班で話しあったことにとらわれなくてもよい。

アングレート

あなたは総合学習で、どのようなテーマについて調べてみたいですか?
また、何か具体的にやってみたいことがありますか?

・ボランティア
ユニセフについて
高齢者のう。障害を持つ。たちとボランティア
など。

※アングレートの集計結果をもとに、テーマの案を評議員から提案する予定です。

1年 月 日 番 氏名

【資料V】

総合学習の活動計画	
グループ名(文化)	メンバー(リーダーに○) ○
活動の目的 アフガンの子供たちと宗教のちがいにによる戦争について	
全体テーマとの関わり (テーマ「多文化社会に生きる私たち...私たちにできることって何だろう」 多様な文化をもつ人々が共に生活していくために必要なこと、私たちができ ること考える)	
アフガンの子供たちの様子を今の日本へ伝え、戦争がとれだ けあつかなものなのかなが伝えていく。	
具体的な活動 ① おはなしをきく。 ② 自分たちでまとめ、伝えていく。	
2月(10)日 集合時間 15:50 集合場所 お茶大	
時間 15:50	注意 相寺本は迷惑をかけたらいよう 細心の注意をばらう。
16:50	活動内容 大学の隣校(先生にアフガ ニスタンの中(小)学校に ついて教えていただく。
17:00	入試期間中は、各自アフガニのことしらべろ。

この計画で活動してよい
この活動計画はまだ不完全です→理由()

【資料VI】

1学年 総合学習 校外学習を終えて(各自、家で記入し2/9に提出)
『多文化社会に生きる私たち～私たちにできることって何だろう～』

共通目的
私たちが興味を持っている分野で、実際に活動なさっている方にお話を伺い、
自分たちにできることは何か考えよう。
そして、訪問グループで協力してしっかりと行動し、きちんとした態度で
お話を伺おう。

- 訪問先・時間
2/5 2:00～ 文京シビックセンター
1:45 集合
- 活動内容
子供の虐待についてお話を聞く
- わかった内容(見たり聞いたことや、実際にやったこと等)
 - <子供支援センターについて>
若林さん達が働いている子供支援センターは、家庭における
子育て及び子供の健全な育成を支援することにより、国民
が安心して子供を産み育て、子供が健康やかに成長し、自立
できる環境の形成に資することを目的として、子育てに
関する相談や、子育て中の親子が交流し情報交換
を図る場の提供、一時預かり保育事業などの活動を
をしています。
 - <子供の虐待について>
しつけと称して繰り返される虐待で、幼い命がうばわれる事件
が、この多発しています。虐待は子供の健全な教育、
発達を損ない、子供の心身に大変深刻な影響を
及ぼします。子供の人権を守り、虐待を防止していくために
この問題への理解をさらに深め、さまざまな機関
の連携を強化していかなければなりません。

4. 活動を振り返って
①さらに調べること
若林さんからお話を聞いた所から
発展させて今の社会の子供達の現状を調べ
ていきたいです。

②よかった点・反省点(次回行う時の課題)
マナーを守ってちゃんと話しを聞くことができました。
反省点は、お話しして下さっている方から、あなた達なら
どう思うかと質問された時にすぐ答えられ
なかったのが次は自分の意見もすぐ言えるように
したいです。

5. 全体を振り返ってチェックリスト
- グループでの待ち合わせの時間が守れた YES NO
 - 訪問先への到着時刻が守れた YES NO
 - 自己紹介がきちんとできた YES NO
 - マナーを守った YES NO
 - 学校生活のルールを守った YES NO
 - グループで協力してしっかりと行動できた YES NO
 - 活動終了後、全員揃って終了報告を電話で行った YES NO
 - 社会のために自分たちができることを、考えることができた。 YES NO
 - 社会のために自分たちができることが一つ以上みつかることができた。 YES NO

1年 組 ()

【資料Ⅷ】

1年 総合学習 発表会 聞き取り用紙

2004 3/9

1年 組()

★各ジャンルの、それぞれの発表を真剣に聞いて、知識を増やしたり、視野を広げよう。

発表者	テーマ	内容・わかったこと	聞いての感想
	アフリカの子供たちについて。	日本とあまり変わらない。学校がはがきされている。テントでやる。制服がある。服はちゃんとしている。	アフリカはだんだんよくなっていることを知ってホッとしました。
	アメリカの文化	アメリカのスポーツ。(国際交流に大切) アメリカではクリスマスは家をかざる人が多い。	日本とはちがった文化がある。スポーツや食文化のちがいがわかった。
	東京都児童館でインタビュー	40周年目。大きな児童館。芸のう人も来る。子供が多く来るには多くの理由がある。	子供のためにとても色々なことに力を入れていてよかった。
	ユニセフ	きれいな水がない所では水を引いている。お母さんに食べ物についての知識を教える。	日本の子供は幸せだということをバカに感心しました。みんな平等に暮らす日があるといいです。
	オーストラリアのお正月	お正月にあいているお店がある。日本のお正月はオーストラリアのクリスマス。	日本が"レタ"だけお正月を大切にしているのかわかりました。
	ブラジルの祭り	オシャラの色は白。髪をおおふことは宗教的な意味がある。アフリカとブラジルの共通点。	アフリカの文化がブラジルにつたえられたことにおどろきました。
	子供の生きる環境	子供のためにお母さんの相談をうけている。ざく待は犯罪。	ざく待をやるお母さんの心理が長になりました。
	温暖化について	温暖化の防止。エネルギーを大切に使う。温暖化が進むと...	家庭科などで行ったものと同じ。温暖化のことにみんなよく知っている機会でした。

報告を聞いて、学んだこと
 文化、福祉、ユニセフ、環境、行事など色々なテーマで調べられている人のことを聞くことができ、とても参考になりました。次の総合学習のテーマに参考になりました。インタビューだけでなく、本などの資料だけで調べている人がいたので、これはあまり、せ、とく、たのしい情報などではないかと思いましたが、発表によって私たちのできることが広がったと思います。

多くの資料を使うとよい